



TITLE:

<記事>1.概要

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>1.概要. 瀬戸臨海実験所年報 1995, 8: 2-2

ISSUE DATE:

1995-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178920>

RIGHT:

1. 概 要

□平成5年度

- ◎平成5年度には次の職員の異動があった。石田長男事務掛長が転出、山本嘉信事務主任が掛長に昇任、能崎不二夫事務主任が着任した（平成5年4月1日）。
- ◎実験水槽室（水族館）改修・増築が完成して、平成5年8月1日から水族館を開館した。併せて、水族館観覧料金およびその算定の根拠について見直しを行い、観覧料金は従前のままとした。
- ◎一般設備費により、顕微鏡画像解析処理システムを導入設置した。

□平成6年度

- ◎平成6年度には次の職員の異動があった。宮崎勝己氏（慶應義塾大学専任嘱託）が助手に採用され着任した（平成6年4月1日）。山本嘉信事務掛長が転出、能崎不二夫事務主任が掛長に昇任、原田晶夫事務官が着任した（平成6年4月1日）。荒賀忠一助手が停年により退官した（平成7年3月31日）。
- ◎大和茂之助手が日本学術振興会ナポリ臨海実験所派遣研究者（長期派遣）として在外研究に従事した（平成6年9月21日から平成7年2月25日まで）。
- ◎M. H. Mona 教授（Tanta University, Tanta, Egypt）を京都大学招聘外国人学者として受入れた（平成6年6月1日から10月28日まで）。
- ◎コンピュータ用フィルムスキャナーを設置した。
- ◎水族館第3水槽室にウォールケースを設置し、標本を用いた解説ができるように整備した。
- ◎水族館東側広場の敷石を撤去し舗装して駐車場として整備した。

2. 臨 海 実 習

□平成5年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学の臨海実習が下記の通り実施された（大学・実習科目・実習期間・受講学生数）。

京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ	7.13－7.20	延	64人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ	8.24－8.31	延	160人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅱ*	3.26－4.1	延	14人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅲ*	3.21－3.25	延	10人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅳ	7.19－7.25	延	21人・日
京都大学理学部地球物理学科課題演習	1.10－1.11	延	12人・日
京都大学総合人間学部海洋生物学現地実習	2.21－2.24	延	64人・日
京都大学大学院理学研究科化学専攻海洋実習	8.17－8.20	延	24人・日
京都大学理学部瀬戸臨海実験所公開臨海実習	9.27－10.3	延	13人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習	4.6－4.10	延	85人・日
大阪千代田短期大学生物学臨海実習	5.6－5.8	延	75人・日
奈良女子大学理学部生物学臨海実習	5.19－5.23	延	40人・日
岐阜大学教育学部生物学臨海実習	6.2－6.7	延	90人・日